

平成 30 年 5 月 稲荷山図書館指定管理者連絡調整会議 議事要録

日時	平成 30 年 5 月 25 日（金） 13 時 50 分から 14 時 30 分まで
場所	光が丘図書館 第一会議室
出席者	<p>(1) 光が丘図書館（以下「光」） 光が丘図書館長、管理係長、運営調整係長・係員（3）、事業統括係長、子供事業統括係長</p> <p>(2) 稲荷山図書館指定管理者（株式会社ヴィアックス）（以下「稲」） 稲荷山図書館長、本社スタッフ（3）</p>
内容	<p>① 施設管理について</p> <p>（光）施設の維持管理について、気になっているところは。 →（稲）普段は特に気にならないが、台風などによる突発的な雨漏りがある。また、館を出てすぐの出入り口付近に 5 段くらいの階段があるが、そこに手すりを設置したいと考えている。</p> <p>（光）会議室の開放を行っているが、利用状況はいかがか。 →（稲）主に中高生が学習に利用しており、土日の利用が多い。</p> <p>② 職員体制・会計収支について</p> <p>（光）今年度の職員体制について →（稲）学校支援員の配置がなくなったため、昨年度 29 名配置だったのが、今年は 20 名のスタッフでスタートしている。今後については、窓口業務の強化やデジタルアーカイブへの従事、30 周年記念などの事業実施のためのスタッフを想定し、年度の後半にかけて新たな採用を 2 名行う予定である。例えば夏場の昆虫教室は外で行うことが多く、親子参加の多い人気事業のため、スタッフを手厚く配置したいと考えている。</p> <p>（光）今年度の職員研修について →（稲）法人主催の研修を中心に組み立てている。11 月に予定しているデジタル工作機械を活用した新しい学びを創出するファブラボの研修については、今年度初めて取り入れた研修である。この研修で得た知識等を新たな事業に活かしたいと考えている。</p> <p>③ 事業計画について</p> <p>（光）「30 周年記念事業ミニコンサート」について →（稲）開館時間を通常より 2 時間延長してコンサートを行う。なお、貸出等の窓口業務については通常通り 19 時で終了する。コンサートは 19 時半から開始予定となっており、窓口業務終了後の 19 時からコンサート開始までの 30 分間は資料の閲覧のみ可能とする。コンサート開始と同時に館の入口は閉めることにしている。</p> <p>（光）コンサート終了後、図書館付近に集まって話をする利用者もいるかもしれない。普段と異なる開館時間のため、図書館近隣住民への配慮もしつつ、実施していただきたい。 →（稲）承知した。そういったことのないように注意する。</p> <p>（光）5 月に予定されている貸出袋について →（稲）30 周年記念のロゴ入りの貸出袋を作成し、事業等の参加者へ随時配布する予定で</p>

ある。

(光) 貸出袋を記念品として配布するだけでなく「資料の貸出時にはきちんと袋に入れて持ち運び、本を大切に扱ってほしい」ということもアピールしていただきたい。

→ (稲) 承知した。

(光) 8月に実施予定の「【開館 30 周年記念事業】昆虫講演会」について

→ (稲) これまでの環境の変化と外来生物の登場などのおはなしを絡め、昔と今の昆虫の違いなどについて講演をお願いしたいと考えている。講演会は毎年行っており例年好評をいただいているが、今年は 30 周年の記念事業に位置付けたうえで、いつもと違った内容にしたいと考えている。

(光) 「デジタルサイネージの設置」について、実施日は未定とあるが。

→ (稲) 設置の日時については決まっていないが、夏休み前に設置できたらと考えている。夏休みは事業が多く、デジタルサイネージで館内事業の発信ができれば良いが、具体的にどういった内容をのせるか、先に導入している春日町の事例を参考にしながら現在検討しているところである。また、設置場所は入口を想定している。

④ 児童サービス事業について

(光) 「おはなしの木」について

→ (稲) おはなしの木は児童コーナーの大きな窓のところに貼っている。おはなしの木の下のスペースで紹介された本の表紙を見せて展示したところ、来館者の目にとまり、本の貸出しにつながっている。

(光) 「はるのスペシャルおたのしみ会」について

→ (稲) 毎年実施している事業である。今年はパネルシアターをいくつも持ってきていただき、たいへん楽しい時間になった。また、英語の上手な方にも来ていただき、英語の歌や手遊びを交えながら、多くの演目をしていただいた。

(光) かがくと森田君のサイエンスラボについて

→ (稲) 当初は事業対象を中高生とし、実施時期も部活が忙しくない4月のうちにと設定したが希望者がなかなか集まらず、結果、中学生の申込みは1名だけであった。そこで実施日近くになり急きょ小学生の募集を行い、やっと参加者を集めたという経緯がある。当初の宣伝については、図書館だけでなく学校支援校にもチラシを張っていたのだが、中高生を集められなかったのが残念だった。

また、通常の事業よりも定員を少なく設定した理由については、当日は実際に実験や体験をしていただく予定であったため、机を用意し、スペースもかなり広めにとっていたからである。

(光) YA世代に図書館へ来てもらうのが難しいと思うが、YA世代にターゲットを絞って情報を提供することは考えているか。

→ (稲) お便りを作成しようと考えている。また、YA世代に職場体験等で来ていただいた際に生の声を聞くなどし、それを参考にしながら、今後の対応策を検討していきたい。